

## 「夢」「出会い」「感謝」

学校長 梅田 比奈子

赤白二色で行なった今年のスポーツフェスティバル。毎年のことですが、瀬小の子どもたちは、6年生をリーダーに本当に一生懸命に取り組んでいました。放課後、自主的に練習を行なう姿が見られ、瀬ヶ崎っ子の素晴らしさを改めて感じました。また、それに加えて、青少年指導員、スポーツ推進委員はじめ多くの方々にお力をお貸しいただくと共に、スポーツフェスティバル終了後は、多くの保護者の方もテントの片付け等を快く行なってくださり、とても助かりました。それぞれの皆さんのあたたかい想いが子どもたちを核として集まった素敵なスポーツフェスティバルになったと思います。

10月28日は車椅子バスケットで四回のパラリンピックに出場し、現在、車椅子バスケットボール日本代表アシスタントコーチ、車椅子バスケットボール日本代表U-23ヘッドコーチ等をされている京谷和幸氏の講演を全校で聞きました。京谷氏は、以前はサッカー選手でした。



小学校5年生でプロ選手になりたいと思ったそうです。その後、サッカーでは、日本ユース代表になったり、オリンピック代表候補になったりし、ジェフユナイテッド市原に入団しました。5年生の時にもっていた夢を実現させたのです。しかし、入団後2年目に交通事故にあい、車椅子生活になりました。一流のサッカー選手として活躍していた彼。その京谷氏の思いは、どのようなものだったか……。しかし、彼は、人と出会い、車椅子バスケットと出会い、努力の末、様々な結果を残していきました。その京谷氏のお話のキーワードは、「夢」「出会い」「感謝」でした。そして、

一人ひとりが夢をもつこと、その夢の実現のために一歩踏み出す事や今できることを全力でやる事の大切さについて。また、失敗は成長するためのものだということや様々な出会いが自分に学びをくれる事、そして、感謝することの大切さについて話していただきました。一人ひとりの子どもたちが、このお話から何かを感じ、一歩前に進んだり、自分自身を見つめなおしたりすることのきっかけになればと思いました。

その後、5・6年生は、車椅子バスケットの体験を行ないました。車椅子バスケットの選手の皆さんが、ていねいに教えてくださり、有意義な時間を過ごす事ができたと思います。私が、一番驚いたのは、車椅子バスケットのコートの大きさやゴールの高さが一般と全く同じだということです。自分が大人のコートでバスケットを行なった時のゴールの高さを思い出し、すごいなあと改めて思いました。子どもたちも選手の技術に感動しながら、笑顔で体験していました。

障害のある人、ない人も得意な事、苦手なことがあります。好きな事も様々です。今日のお話や体験を通して、私は、苦手な事でもあきらめずにやってみることや、最初からできないと思わずに取り組んでいくことの大切さ、そして、好きな事や得意な事を一生懸命やってみることの素晴らしさ等感じました。そして、やはり、人は人と関わって生きていくのだということも……。今日、瀬小に来てくださった方々も様々な人と関わり、多くの事を乗り越えてきています。たくさんの人々があたたかくかかわってくださる瀬小の子どもたち。その子ども一人、一人が夢をもって、自分の良さに気づき、友達の良さからも学び、また、多くの人との出会いの中で、豊かに成長して欲しいと改めて思った一日でした。

